

「山はみんなの宝！全国集会」に寄せられたご意見（一部）

日本のシンボル「富士山」の復活に本補助金が果たした役割は計り知れません。また快適な山のトイレは「山ガール」の急増にも一役買っているのではないのでしょうか？今後、山が出会いの場となり、「少子化対策」に繋がる可能性も大きいものと思います。

山小屋は行政に替わって自然公園利用者のための施設を提供し、自然公園の管理運営の一翼を担っていますが、そもそも利用に必要な公共的あるいは非営利施設は、自然公園である以上、国等が負担することこそ基本原則なのではないのでしょうか？
(信州大学・S氏)

設置者の多大な費用負担と国の補助金もあって、山岳地のトイレ整備が飛躍的に進みました。ここまで来るのに山小屋や自治体は大変な苦勞を重ねてきました。

また、山のトイレは維持管理にも大変な費用と労力が必要です。そのため利用者にチップをお願いしても平均 15～20 円の協力しかえられません。一方ランニングコストは建設費を抜きにして平均 200～500 円が必要です。そして、時にはチップ箱が盗まれる事態まで起きているのです。

貴重な自然を守るために大勢の人々が力を尽くしている今日、自然を利用する側の人々のトイレに関する理解とモラル向上が求められます。
(南アルプス市・S氏)

山岳公衆トイレは、立地環境条件や維持管理面等から制約を受けるため、整備が進まない現状の中で、これまでも山小屋のトイレは、宿泊外の登山者に開放し公衆トイレとしての役割を担ってきている。

この山小屋施設のトイレを、環境に配慮したトイレに整備することは、自然環境への負荷を軽減し、かつ、安全で快適に自然とのふれあう機会を提供するもので、今回の公開プロセスの結論として「廃止」は、以下の理由で納得いきません。

自然公園における公共トイレの位置付けや整備・管理からの論点がない。

日本の自然公園制度は、地域性公園として制定されており、入山規制や入山料の徴収はなじまないものであり、規制強化による自然・景観保全に重心を移行するよりも、適切な保護と利用をすすめていくものとする

平成 16 年の三位一体改革により、国立公園の整備は、都道府県への補助事業が廃止し、原則国（環境省）が直結で整備・管理することに“仕分け”されたが、その後の国立公園内における公衆トイレの整備は、前述のとおり進んでいない。当然、都道府県も補助事業の廃止に伴い整備が実質出来なくなった。

(富山県・O氏)

まだまだ整備しなければ大変な事になる。水も土も空気も山の上からきれいにしないと。

(北アルプス山小屋・I氏)

コストのあわない山岳地帯のトイレの維持管理には大きな負担が必要である。初期投資も空輸等で大きな負担が必要なので、投資に対する補助は重要である。
(石川県・N氏)

早急な整備には国の支援が必要。

(長野県・N氏)

山小屋を都会のホテルと同じ立場で考えるべきといった意見が、結果的に大勢をしめたようですが、浮世離れた見識の無さには悲しさを覚えます。

利用者が全て費用を負担すべきというなら、まず、都会の公衆便所に全て有料化すべきでしょう。道の駅のトイレも駐車場も全て有料化すべきです。一途の仕分け作業の悪い点、負の部分が如意に現れる仕分け結果だと思えます。もっと前向きな現実に応じた議論、対応がほしかったものです。

(北アルプス山小屋・K氏)

山に登りますので非常にトイレが困ってます。バイオ等のトイレが広まれば環境もよくなります。

(I社・Y氏)

何故、補助金制度が廃止されたのか、全く理解できない。国の施策が信じられなくなった。

(北アルプス山小屋・Y氏)

より良い山の自然を、みんなで。

(日本山岳協会・M氏)

歴史に残る人の『考え方の常識を創る日』に成りますように。

(日本山岳協会・H氏)

受益者負担という、小さな山小屋には、気の毒な考え方は行政の役割を忘れたものだと思う。

(北アルプス山小屋・H氏)

山梨県の山岳トイレは他県に比べ、普及が遅れており、自然保護委員会の中に山岳トイレ研修会を持ち、登山口、登山路、山小屋の現状を把握し、オーバーユースによる将来環境保全の為、よい意味で提言していきたいと考えています。

(山梨県・I氏)

平成 21 年度事業において、地域が待ち望んでおりました小秀山にバイオトイレ付の避難小屋を整備することができました。山岳環境の浄化と登山者の安全のため、ご尽力をお願いします。

(中津川市・O氏)

北海道の山岳トイレは少なすぎます。山を美しいままで楽しむにはせめて登山口にはトイレが欲しいです。

国からの支援打ち切りでは、自然破壊がいつそう進むのではと危惧しています。登山文化を守るためにもトイレなどの施設整備に予算を削らないで下さい。

(日本山岳会・H氏)